

## 公有林の経営と地元民経済

佐賀県林務課 野 中 寛

ここに佐賀県において公有林を広大に所有する脊振村を捉え、この村の公有林経営の在り方を地元民経済の改善という視角から提起して私見を述べる。

### 1. 脊振村の概況

この村は福岡・佐賀の県境を東西に走る筑紫山系の最高峰脊振山の南斜面に位する佐賀県神埼郡の山村である。村全体は傾斜の急な林野で覆われ、戸数695戸この内農戸数が84%を占め、人口密度は64人/1km<sup>2</sup>で県平均の $\frac{1}{2}$ に及ばない。土地の利用は第1表の通り耕地畑畑合せて380町歩、農家1戸当りの耕作規模は7反弱で、山村としては大きく、しかも水田が主で米作中心の農業が行われている。米の生産力は相対的に低いが村内の自給を満してなお余りがある。林野面積は5600町歩で総地積の92%を占め、村民の生活は米と木材、薪炭の生産に強く依存した停滞的な貧しい村である。

第1表 土地の利用

種	類	面	積
	田		322町
	畑		58
山	林	5,234	
原	野	372	
そ	他	119	
	計		6,105

### 2. 村有林とその成立経過

このような環境の中で、村有林は第2表の通り2673町歩を占め、うち1517町を直営造林とし明治末期から針葉樹の人工造林を積極的に行い、現在その蓄積は用材847千石、薪炭材84千石を保持し、用材林の蓄積に

第2表 所有別林野面積

所	有	森 林	原 野	計	%
国	有	771町	—	771町	14
村	直営造林	1,517	—	2,673	48
	官行造林	787	—		
	貸付	369	—		
私	有	1,790	372	2,162	38
	計	5,234	372	5,606	100

についてはこの村の民有林総蓄積の8割を占めている。

この莫大な村有林の成立は明治38年不要存置国有林の拂下をうけたことに始まり、拂下代金の調達これに引続いて毎年100町内外の造林と保育に所要の経費は、凡て村民の寄附金と無償の夫役労働を動員して行つた。これは当時の村民経済力から真に過重の負担であったが、村民の長期の耐忍精魂を傾けての努力によつて今日の大成を挙げた。

### 3. 村有林の経営現況とその危機

村有林は既に保続生産の基盤を確立し、昭和28年度伐採収入は1300万円に及び村財政収入の半ば近くを占めるに至つた。村有林の存在によつて、村は県下で財政上屈指の富裕村に数えられるが、これと対照的に村民の所得は低く貧しい。林野の利用以外に経済発展の途がないこの村において、村有林の存在と経営活動の如何は村民経済の上昇発展に大きな影響と役割を演ずることはいう迄もない。然るに村有林の経営現況は、再生産に当つて今も尙村民の夫役労働と造林補助金を支柱として経営を続け、立木処分は公売競争入札制をとるため資力に乏しい村内業者の取得は少なく、更に処分による多額の収益は凡て村財政収入に繰入れ、税や寄附の軽減に振向けている。このような村当局の経営政策は、村民大衆の不平不満を鬱積せしめ、村有林に対する協力熱意を薄めるに至り経営は漸次行詰りを来しつつある。今にして進歩的な経営に転向しない限り重大な危機を招来する恐れがある。

### 4. 村有林経営の在り方

この危機を未然に回避する新しい経営の新秩序は如何にあるべきか。それは村民大衆の正しい主張や与論に応えた経営であり、村有林という資源を対象とした経営もさる事ながら、村有林を村民に如何に高度に利用させるか、如何にすれば村民各階層に普く利益を均霑せしめ得るかという村有林の経営をして村民経済に直結せしめることに重点をおいたものでなくてはならぬ。このために村当局は次の方策を考慮すべきである。

1. 前期的な労働生産性の低い夫役労働を廃して近代的雇用関係に切替える事が必要であり、村有林経営が再生産段階に入った今日、可能の事である。農業生産力が低く、兼業に恵まれぬ村有林による雇用賃銀収

入に対する期待が強いからである。

2. 村は造林保育の集約化，林道の開設，直営による素材の生産及び製材など生産投資を拡大して，村民に雇用の機会を多く与え，賃銀を十分に支拂つて村内雇用賃銀の適正化に先駆的主導性をとるべきである。

3. 地元民の経済発展を助長するため，間伐木の特売及び林地の一部貸付又は売却を行う

4. 村民の行う私有林業の育成発展のために経営の共同化，組織化が必要である。このため森林組合の強化一技術員の増員，活動経費の増額一に対し，村は財政援助を行う。

### 5. 結 言

このような民主的経営こそは，村民大衆の支持を受け，行詰つた経営現況を突き破る力となつて発展的な歩みを続けることができる。これは当面村の収益を減少せしめるが，この負<sup>マイナス</sup>量より遙かに上廻る金額が村民の所得となり村民の生活は改善される。これは又村財政にハネ返つてくるものである。公有林の経営は公有林と地元民経済との結びつきを民主化する政策をとつてこそ，村民も村も共に榮えるのである。

## 飼肥地方森林気象観測について

林業試験場宮崎分場 松尾安次・染郷正孝・川述公弘

### 1. 前 言

飼肥地方杉造林の成績が良いという事については色々な良い条件が総合的に作用していることはいうまでもありませんが，そのうちでも気象条件は大きな役割を果している筈であります。この気象がいわゆる飼肥林業の本場に於てどんな現象を示すものかこの問題について調査を進めるべく，昭和28年8月からおび造林の中心地である南那珂郡北郷村大戸野に於て飼肥営林署の御協力により気温空中湿度，雨量，3種の観測に着手しました。計器の不備その他の点でここに1年間の観測結果は充分ではありませんでしたが，この経験

により引続き調査を試みる予定であります。ここには以上1年間の観測の概要を予報として図示するに留めます。

### 2. 観 測 場 所

宮崎県南那珂郡大戸野。

### 3. 観測器及び観測

雨 量

自記雨量計（1日巻）

観測の途中一部に誤謬があるので，結果の表示は後日に譲り最寄の観測を引用し概要を示すことにした。

大戸野に於ける気温

気 温

大戸野に於ける湿度

